

令和5年度第9回教育研究評議会議事録

日時 令和6年1月18日(木) 14:30～16:16
場所 事務局5階大会議室、S-P o r t 3階会議室
出席者 日詰、塩尻、川田(Web参加)、森田、大場、川村、青木、佐藤、鎌塚、高倉、金原、本橋、近藤、田中、桐谷、熊倉、村山、笹原、小西、山本、竹内、福田、鳥山、加藤、池田、平井、水谷、原和彦、原正和、今泉、木村雅和、間瀬、河合の各評議員
欠席者 木村元彦委員
陪席者 鈴木、河島の各監事、井柳、栗井(Web参加)の各学長補佐

I 前回議事録の承認について

令和5年度第8回教育研究評議会議事録(案)を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 静岡大学の将来構想について

議長から、静岡大学の将来構想について、資料1-1により、令和5年12月21日～令和6年1月18日までの会議等の開催状況の報告があった。

続いて、議長から、12月21日開催の役員会において未来創成ビジョンを本学の将来構想として承認を得たこと、浜松医科大学からの依頼書に対して回答したこと、役員会後の記者会見について報告があった後に、意見交換が行われた。

<委員等から出された意見>

小西委員：教育研究評議会で決定した成案の中で、今後検討して変更していくことを前提とした可変部分について、その変更のための議論をどのタイミングで行うのか。浜松医科大学と一定の合意に至ってからビジョンをより具体化していく段階で議論をするのか、或いは浜松医科大学との合意のために現時点からビジョンを具体化するための議論を始めたうえで交渉を進めるのか。学群制度には非常に問題があることを何度も指摘しており、真剣に作り直しの議論をしなければいけないと考えている。

議長：まずは浜松医科大学の今野学長にご説明をし、その後に小西委員の発言にあった可変部分や学群制度について考えていきたい。

小西委員：学群制度を含む不確定な部分の内容を具体的に詰めていくというプロセスが、我々に宣言なく始まると非常に困るので、その議論が始まる際にそのことを明確に示していただきたい。

議長：そのように進めることを承知した。

福田委員：今野学長の受け止め方次第で可変部分の検討を開始することについて、今までの感触ではそれを進められる状況ではないと考えている。今後の見通しを教えてください。

議長：学長同士による話し合いが非常に大事だと考えているので、今月に今野学長とお会いする予定があり、その際にお話できればと考えている。

福田委員：差し支えなければ、そのトップ会談がいつ行われるのか教えてください。

議長：1月30日の予定である。

福田委員：1月30日は連携協議会ではないのか。

議長：少し時間を取ってトップ会談を行い、連携協議会は休会にすることを予定している。その内容については、今後報告させていただくことにしたい。

川田委員：学内の一体感の醸成をしていかなければならないが、トップダウンで行われるものではなく、皆がその方向に向かっていくという思いが必要である。最初に将来構想は両者の立場に立って議論することをお願いしたが、そのような議論は行われずに成案

化されたと感じており、議論の進め方が不十分だったことをきちんと理解し反省しなければ、一体感は醸成されないだろうと考えている。

高倉委員：浜松キャンパスが静岡キャンパスに比べて不便であることなどのキャンパス間の構造的な問題について、取り組める部分はどんどん進めていくべきで、記録に残して見えるような形で行うことが大事だと感じているので、役員レベルで検討をしていただきたい。

議長：既にアンケートを取っており、それをもとに対応を検討できるのではないかと考えている。

- 2 静岡大学におけるハラスメント防止体制の整備に伴う規則の制定等について
高倉委員から、資料2により静岡大学におけるハラスメント防止体制の整備に伴う規則の制定等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

- 3 静岡大学事業継続計画（BCP）の策定について

高倉委員から、資料3により静岡大学事業継続計画（BCP）の策定について説明があり、意見がある場合には2月14日までに総務課へ連絡していただきたい旨依頼があった。また、意見照会の結果を踏まえ、改めて審議を予定している旨の説明があった。

<委員等から出された意見>

福田委員：1月1日の能登半島地震では、安否情報が約75%の回答率であり、全員の確認までは出来ていない状況だった。実際の災害の際には計画どおりに動けないこともあるので、例えば災害の時に指揮命令系統により学部長に具体的な指示があれば非常に動きやすいと思う。また、防災訓練でこの計画に沿って、しっかりと訓練することも大事である。

高倉委員：BCPには災害時の対応体制、安否確認内容、役割等が記載されているが、具体的な指示が直接連絡されるような体制も大事だという福田委員からの御指摘も踏まえて運用できるように考えていきたい。安否情報については、能登半島地震では全体で75%の回答率で、教職員90.8%、学生73.2%の内訳である。参考値として、令和5年度の防災訓練では全体で54.4%の回答率で、教職員84.1%、学生49.8%の内訳である。この回答率を上げることも重要であるが、ANPICで捉えられないことを補足する仕組みも必要であり、今回は学生生活課において保証人が石川県に在住している学生を洗い出し、個別に安否確認を行う体制を取っていた。

福田委員：学生生活課での対応が我々にも報告があれば安心したが、そのような報告はなく、どこまで我々で対応すればよいか分からない状況であった。

高倉委員：非常に重要な御指摘なので、今後改善していきたい。

- 4 第4期中期計画の変更について

森田委員から、資料4により第4期中期計画の変更について説明があり、審議の結果、これを承認した。

- 5 国立台北科技大学（台湾）との大学間交流協定の更新について

近藤委員から、資料5により国立台北科技大学（台湾）との大学間交流協定の更新について説明があり、審議の結果、これを承認した。

- 6 ワルシャワ工科大学（ポーランド）との大学間交流協定の更新について

近藤委員から、資料6によりワルシャワ工科大学（ポーランド）との大学間交流協定の更新について説明があり、審議の結果、これを承認した。

7 アレクサンドル・イワン・クザ大学（ルーマニア）との大学間交流協定の更新について

近藤委員から、資料7によりアレクサンドル・イワン・クザ大学（ルーマニア）との大学間交流協定の更新について説明があり、審議の結果、これを承認した。

8 バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）との大学間交流協定の更新について

近藤委員から、資料8によりバングラデシュ農業大学（バングラデシュ）との大学間交流協定の更新について説明があり、審議の結果、これを承認した。

9 コメニウス大学（スロバキア）との大学間交流協定の更新について

近藤委員から、資料9によりコメニウス大学（スロバキア）との大学間交流協定の更新について説明があり、審議の結果、これを承認した。

III 報告事項

1 令和5年度第9回企画戦略会議（令和6年1月5日）報告

議長から、令和5年度第9回企画戦略会議（令和6年1月5日）について、資料10により報告があった。

2 次世代研究者挑戦的研究プログラムへの申請について

川田委員から、次世代研究者挑戦的研究プログラムへの申請について、資料11により報告があり、原和彦委員から補足説明があった。

3 令和5年度卒業・修了者の進路状況（11月30日現在）について

鎌塚委員から、令和5年度卒業・修了者の進路状況（11月30日現在）について、資料12により報告があった。

4 教員採用等報告について

議長から、教員採用等報告について、資料13により報告があった。

5 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）について

議長から、東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）について、資料14により報告があった。

<委員等から出された意見>

金原委員：タスクフォースで個別のテーマで連携する際に、静岡大学の持つポテンシャルをどのように育成するのか、そこが尖っていなければ他大学と上手くやっていけないと思うが、その点のストラテジーをどのように考えているのか。

議長：今後、学内で対応を協議していかなければいけないが、例えば、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に取り組むことを一つの目標として考えており、Tongali や東海バイオコミュニティ、カーボンニュートラルなど様々な事業にも取り組んでいきたい。1月9日の会合の際は、愛知教育大学の野田学長から、教職課程の認定を受ける組織について、本学や三重大、岐阜大とともに対応していきたいという申し入れがあり、是非参画していきたいと考えている。

佐藤委員：地域中核・特色ある研究大学強化促進事業に採択された大学は、様々な参画機

関と組んでおり、国際展開による広がりも非常に注目されているので、この枠組みの中でしっかりと体制を組むことが重要である。国における大型の競争的資金は、小規模の連携では取りにくいいため、C-FRONT の枠組みを上手く活用して大型予算の確保に繋げることが必要だと考えている。

IV その他 なし

以上